

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	室蘭に新たな観光客を呼び込むためのアイデア	室蘭市
アイデア名 (注1) (公開)	いぶりフォトラリー		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	チームセカンド		
チーム属性 (公開)	<input type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム	<input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	3名		
代表者情報	氏名 (公開)	山田巧	
メンバー情報	氏名 (公開)	小林星也	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### アイデア概要

私たちのアイデアは“いぶりフォトラリー”という名称のアイデアである。このアイデアは胆振の景勝地をスタンプラリーのようにまわって写真を撮ってもらい、その景品として撮影した写真をまとめたファイルをプレゼントするというものである。このアイデアは外国人観光客が長万部駅～登別駅間の観光中に、電車内と周辺の景勝地で実施するものである。アイデアの実現のために使用する機器はタブレット端末（図 1）とスマートフォンである。タブレット端末は電車内に設置し、スマートフォンはユーザの私物にアプリケーションをダウンロードしてもらい使用する。

#### フォトラリー実施の流れ

1. 電車内のタブレット端末で企画の説明をした後にフォトラリーでまわるルートを決定する。
2. 電車内で決定した景勝地に行き、ユーザのスマートフォンにダウンロードしたアプリを用いて写真を撮影し、アップロードしてもらう。
3. 設定した景勝地をまわって写真をすべてアップロードすると、ユーザのスマートフォン内のアプリケーションに撮影した写真をまとめたものがダウンロードされる。

#### フォトラリー詳細

- ・ ルートを決定する際に“難易度”を選ぶ。難易度は“EASY”、“NORMAL”、“HARD”の3つから一つ選択する。難易度が高いほどまわる場所が増える。EASY では 3ヶ所、NORMAL では 5ヶ所、HARD では 7ヶ所になる。高難易度を選択すると、達成した際の景品としてプレゼントされる写真をまとめたファイルのフレームが豪華になる。難易度ごとの達成報酬の例を図 3 に示す。また、高難易度達成者は電車内のタブレットで紹介される。
- ・ ルートを決定するためにタブレット端末上では図 2 のようにいくつか景勝地のテーマを設けてプランを提示する。

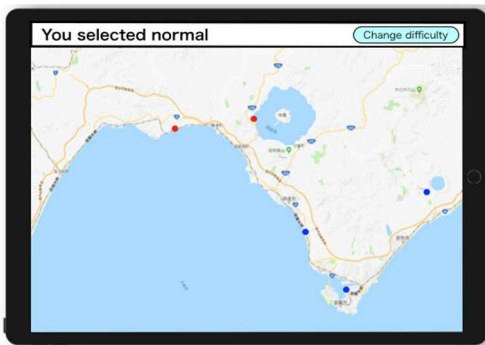


図 1 タブレット端末のマップ画面

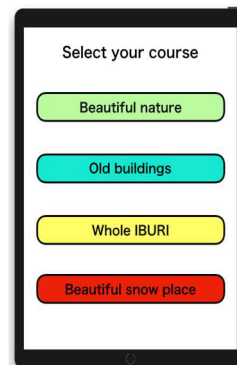


図 2 景勝地のテーマ例



図 3 達成報酬の例

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

- input と output を決めるために機能展開を行った。図 4 は機能展開を行った結果を示している。
  - input は観光で函館に来た人から上方展開を行った。
  - output は胆振の観光地に来た人から下方展開を行った。
  - 上方展開の結果より、“観光で日本に来た人”、“観光で函館に来た人”の 2 点から“海外から函館に観光をしに来た外国人”を input とすることに決めた。
  - 下方展開の結果より“胆振が気に入った人”、“風景を見に来た人”の 2 点から“景勝地を見て胆振を気に入った人”を output とすることに決めた。
  - これらのような input と output を設定した理由としては観光庁による統計情報である“2014 年 7 月から 9 月期にかけての訪日外国人消費動向調査（観光庁 HP：<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syouthityousa.html>）”によると外国人観光客の旅行目的の上位に自然・景勝地観光が挙げられているためである。図 5 は訪日外国人消費動向調査のグラフを示している。

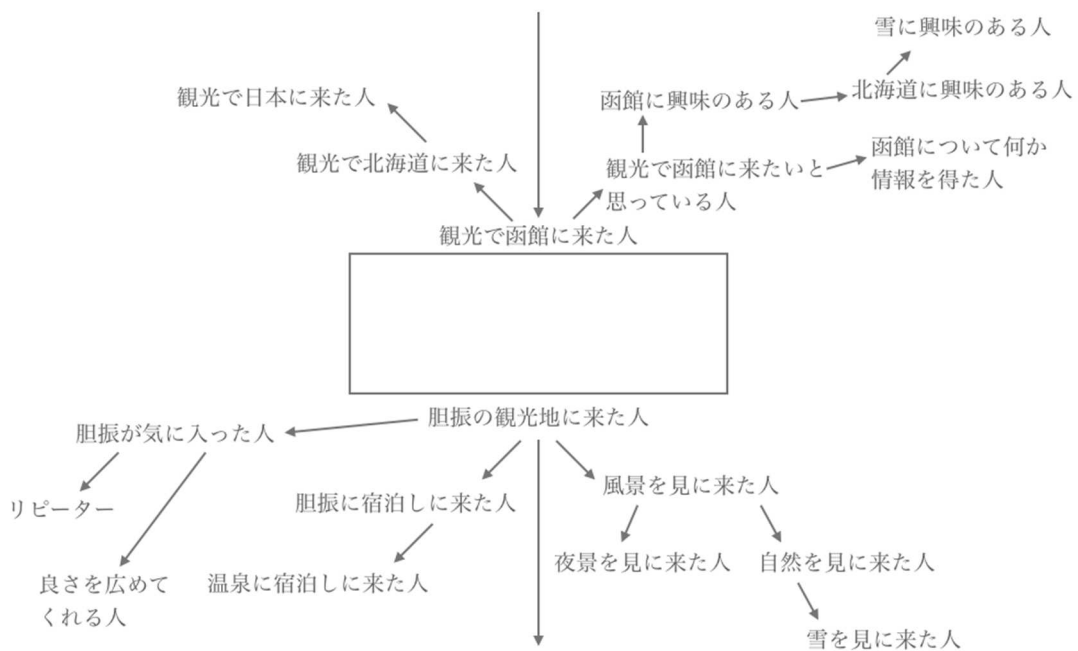


図 4 機能展開図

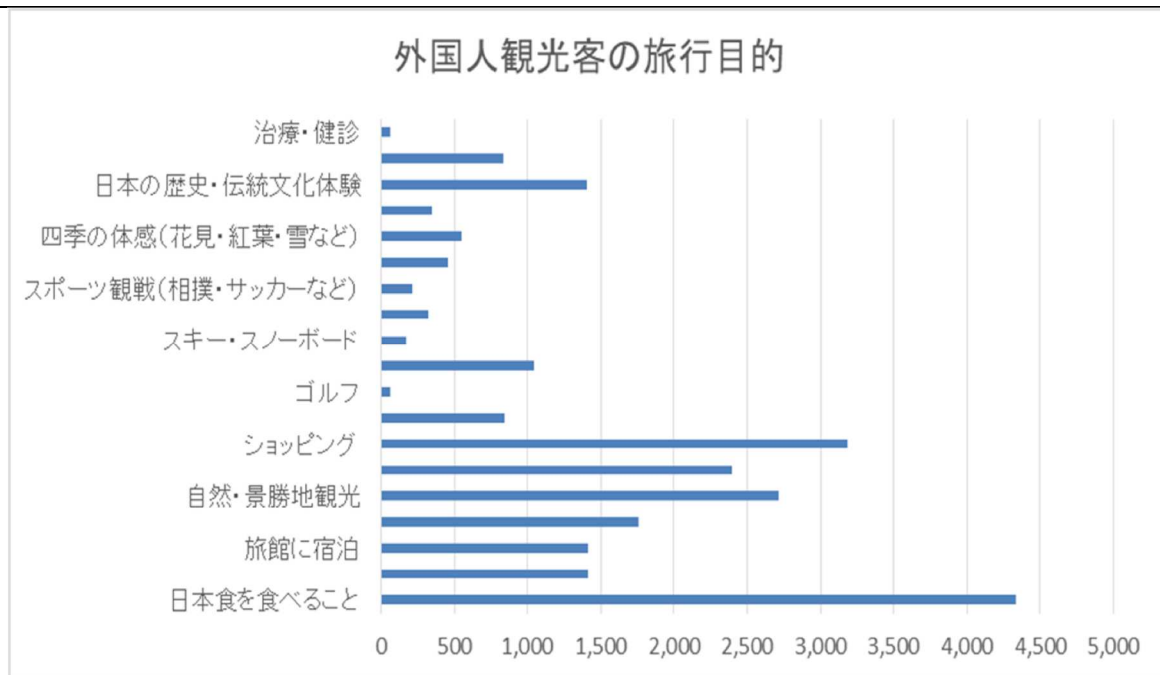


図 5 外国人観光客の旅行目的

・制約条件については外側の制約条件（ターゲットやターゲットの行動範囲）と内側の制約条件（ハードウェアや環境の変えられる条件，変えられない条件）を考えた。

・外側の制約条件

- ・ターゲット：函館に観光に来た外国人
- ・行動範囲：電車内と電車を降りて観光をする間

・内側の制約条件

- ・電車の内外装を大きく変化させることはできない。
- ・路線を変更することはできない。
- ・割引券や無料券などのお金の代わりになるものを利用者に渡すサービスは実施できない。
- ・電車内にタブレット端末などを設置することはできる。

・以上のような制約条件を考慮した結果，私たちのアイデアである電車内のタブレットで景勝地を示し，フォトラリー形式で利用者が取ってきた写真をひとつのファイルとして渡すというアイデアは実行可能と考えられる。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

アイデアを実現する主体としては北海道胆振地方の自治体を考えている。北海道胆振地方の自治体が主体となり JR 北海道と協力して実現することによって、自治体には観光客が増え税収が増えるというメリットがあり、JR には利用客が増えるというメリットがある。また、各自治体は自分たちの地域の景勝地に関する情報をたくさん持っているのをそれを使用することができるというメリットもある。

アイデア実現までの流れを示すものとしてコンポーネント図を描いた。図 6 はアイデアのコンポーネント図を示している。図中の長方形で囲まれている部分は仕組みを、円柱は仕組みを実現するために必要なデータベースを示している。

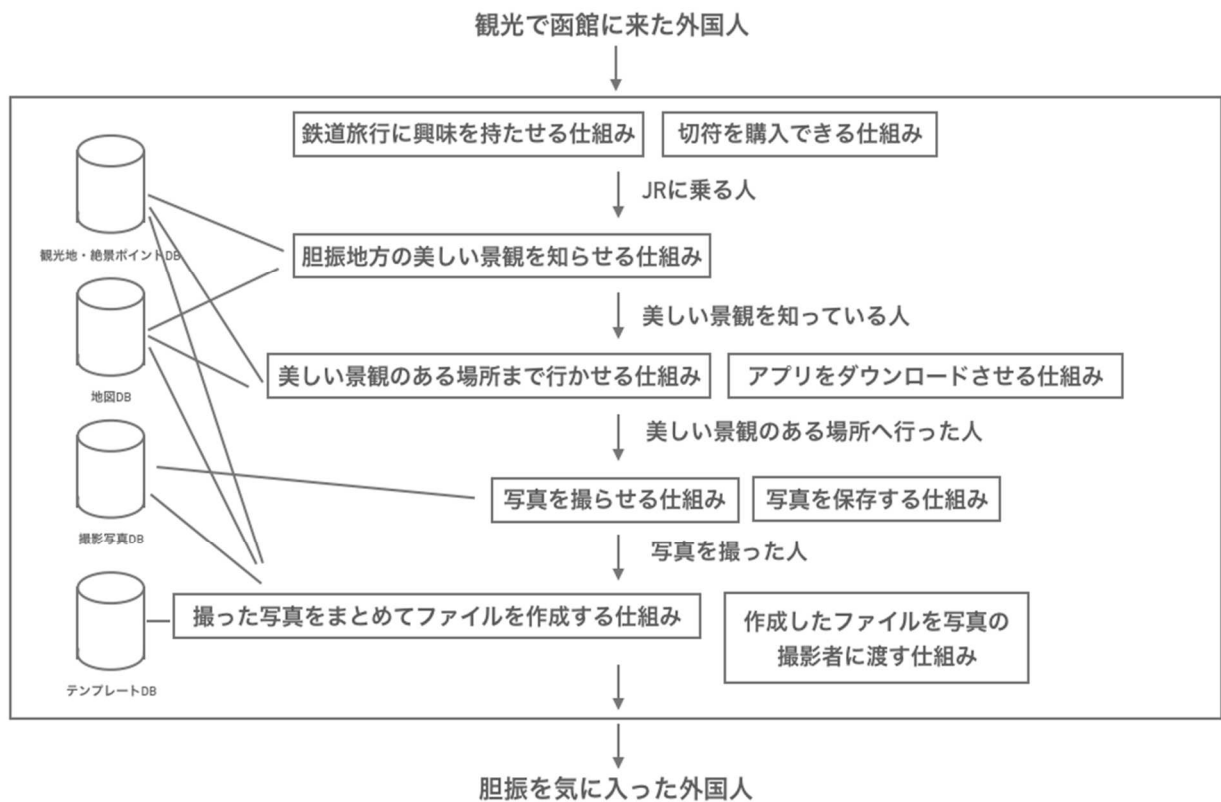


図 6 コンポーネント図

アイデア実現までの線表を図 7 に示す。

	2017年										2018年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
外国人向けの広報	提案		宣伝活動実施										
切符販売システム	開発			テスト・修正			システム連動テスト			修正	リリース		
電車内のタブレットで使用するアプリケーション	開発			テスト・修正			システム連動テスト			修正	リリース		
ユーザのスマホにインストールするアプリケーション	開発			テスト・修正			システム連動テスト			修正	リリース		
アップロードされた写真をまとめたファイルを作成するシステム	開発			テスト・修正			システム連動テスト			修正	リリース		

図 7 アイデア実現までの線表